

# 安倍政権の暴走を止めよう！

# 78

## 改憲勢力で 発議可能に

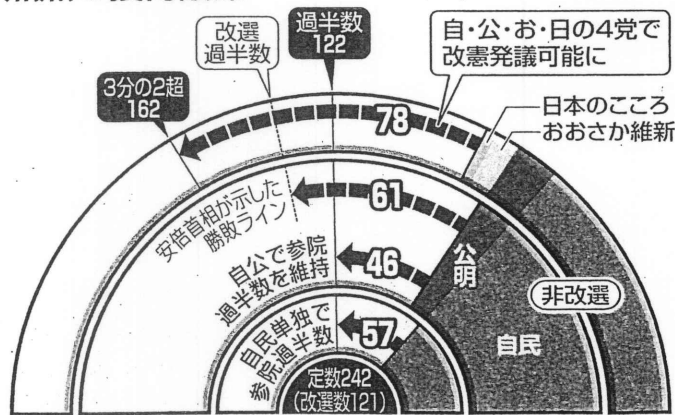
参院選は、二つの議席数に注目が集まっている。一つは改憲勢力が、改憲発議要件を満たす参院定数の三分の二以上（百六十二議席）を確保するかどうか。もう一つは、自民党が衆院に加えて参院でも二十七年ぶりに単独過半数を握るかどうかだ。（横山大輔）

安倍晋三首相（自民党総裁）は二十一日夜のNHK番組で改憲に関し「（衆参の）憲法審査会で真剣に議論し、与野党に関係なく三分の二が賛成するものについて（国民投票で）国民の信を得なければいけない」と、野党の協力を得たい考えを示した。自民、公明の与党と、改憲に向きななおおさか維新の会、日本このころを大切にする党を軸に考えているとみられる。この四党で、非改選も含めて三分の二以上を確保する場合は、今回の参院選で計七十八議席が必要。公明党は早急な改憲発議には慎重で、直ちに改憲を決定付ける数字ではないが、改憲派の無所属議員を加えるとハードルは下がる。

安倍政権下での改憲阻止を目指す民進、共産、社民、生活四党は「まず三分の二を許さない」（民進党の岡田克也代表）ことが目標。この四党で三分の一以上（八十一議席）を確保すれば確実に阻止できるが、四党の非改選議席は計二十七議席にとどまる。無所属で出馬した四党の統一候補を含めて五十四議席を獲得しなければならぬ。一方、自民党は今回五十七議席とれば、非改選と合わせて過半数の百二十二議席に達する。一九八九年の参院選大敗で失った衆参両院での単独過半数を回復する。

その場合、自民党は単独で法案を成立させられるため、連立を組む公明党に縛られず、政策ごとに他党との連携を模索できるようになる。参院の改憲勢力が三分の二に達していないとしても、改憲に向けた多数派工作が活発化する可能性がある。自民党幹部は「正直、単独で過半数がほしい」と話す。自民党は最近五回の参院選で二〇〇一年、二三年の二回、五十七議席以上を獲得している。このほか、与党は今回四十六議席を獲得すれば、非改選

### 焦点の獲得議席



野党					与党				
非改選	民進	共産	おおさか維新	日本のころ	社民	生活	諸派・無所属	公明	自民
議席	17	8	5	3	1	1	10	11	65

# 57

## 単独過半数 自民「一強」

(2016.6.23 東京新聞)

ついに第24回参議院議員選挙がスタートしました。

今参議院議員選挙は、紛れもなく日本の将来の分水嶺としての重要な選挙となります。

2012年（平成24年）12月26日に安倍政権が誕生して以降、武器輸出三原則の緩和、集团的自衛権の行使容認、特定秘密保護法の制定、日本版NSCの設置、そして安保法制など矢継ぎ早に戦争政策を推し進め、さらに憲法の改悪を具体的に政治日程に乗せようとしています。さらに派遣法を改悪し、派遣労働者の固定化・拡大を行うとともに、さらに解雇の金銭解決や残業代ゼロ法などの導入を図ろうとしています。

このような社会を許してはなりません。JR総連推薦候補者の当選を目指そう！